

十和田市事務事業評価シート

担当課名	高齢介護課
------	-------

【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	78	整理番号	13
基本目標	安心・安全を支える「暮らし感動・創造都市」		
施策の展開方向	福祉の充実		
事務事業名	老人クラブ活動支援		
事務の種類	自治事務	根拠法令等	厚生労働省老健局通知(H13.10.1老発第390号)
関連する事務事業			

【人件費の推移(概算)】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	24	24	24
	人件費(千円)	864	864	864
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	21年度実績	22年度実績	23年度計画
	20,045	19,795	20,039
うち一般財源	16,399	16,245	16,489
うち国県支出金	3,646	3,550	3,550
うち地方債			
うちその他			

【事務事業の概要】

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	老人クラブ会員
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	高齢者の生きがいや健康づくり及び社会参加を促す
手段 (どのようなやり方で行うのか)	老人クラブ活動への補助

【指標】

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	会員数				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
		人/年	2,460	2,375	2,400	
	活動指標名					
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	老人福祉センター年間延べ利用者				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
			目標値	6,000	6,000	6,000
			実績値	5,295	5,545	
			達成度(%)	88%	92%	
	成果指標名	老人クラブ会員福祉パス利用者				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
			目標値	5,200	5,200	5,200
			実績値	5,084	4,699	
		達成度(%)	98%	90%		

十和田市事務事業評価シート

整理No	13
計画No	78

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 現在急速に進む高齢社会において、社会参加を促す事業として需要が高いといえる。 介護を必要としない状態で住み慣れた地域で老後を過ごしていくための大きな社会資源であると考え。
	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合しているか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	3	成果向上の余地 3 / 6 現会員の高齢化が進み、新規会員の減少が大きな課題である。 新規会員が増加することにより、活動が活発になり、閉じこもり予防や認知症予防を含めた高齢者の生きがい対策が充実される。
	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1		
	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
効率性	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 老人福祉センターの運営管理は指定管理者制度を導入している。 老人クラブ活動に関する計画立案、運営は老人クラブ連合会、単位老人クラブが自主的に行えるようになった。
	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		
	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済		2		
公平性	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 広く市民には老人クラブ活動の意義を伝え、みなさんが参加できるよう案内している。
	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
			現在の適性	17 / 20	改善の余地 3 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

有効性を改善して継続

方向性の理由

新規加入者を増やし活動を活発にする必要があるため有効性を改善して継続する。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

新規に加入する会員が少ないため、老人クラブ連合会と協議しながらその原因を把握し対策を立てる必要がある。具体的には、老人福祉大会や老人クラブの総会等で老人クラブ活動の楽しさや意義を広く市民に伝え新規加入者の増加を図りつつ、魅力のある元気な老人クラブの育成に力をいれる。